

1. 災害を知る

1-1. 越前市で発生した過去の水害

平成16年7月の福井豪雨では、旧今立町を中心に市内各地で、また、平成24年7月の東部集中豪雨では、栗田部地区、岡本地区、味真野地区で浸水害が発生しています。

福井豪雨（平成16年）



東部集中豪雨（平成24年）



住宅被害（棟）

	床上浸水	床下浸水	一部破損	半壊	全壊	合計
福井豪雨	592	271	23	5	2	893
東部集中豪雨	50	174	7	2	0	233

1-2. 大雨によって想定される災害、被害

洪水

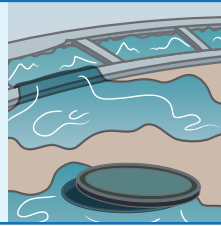
外水氾濫

大雨などで河川が増水・氾濫して、浸水します。



内水氾濫

短時間の大雨で、排水路の処理能力を超えて浸水します。



ため池決壊

長時間の雨などによって、ため池の堤の土が、緩んで崩れ、決壊します。



道路の冠水



エンジンが停止したりして車が水に浸かると、車内から出られないことがあります。

床下浸水・床上浸水



流れ込んでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。

家屋の倒壊



水の流れなどによって、家屋が倒壊し、命の危険性があります。

土砂災害【このような前兆がおこったら急いで避難！】

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）



- がけから小石がパラパラと落ちてくる
- がけに亀裂がある
- がけから急に水が湧いてくる

土石流



- 山鳴りや、立木がさける音がある
- 川が濁ったり、流木が混じる
- 雨が降り続けているにもかかわらず、川の水位が急激に下がる
- 腐った土の臭いがある

地すべり



- 地面にひび割れができています
- 池や井戸の水が急に減ったり、濁ったりする
- 地面の一部が没落したり、隆起している

コラム

「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」、「令和元年東日本台風（台風第19号）」では、甚大な被害が発生しました。被害を拡大させた要因の1つに「避難率の低さ」即ち「逃げ遅れ」がありました。避難しなかった理由として、「まさか、ここまで被害が広がるとは思わなかった。」「今までも大雨が降ったことはあったが、避難する必要はなかった。」などの先入観がありました。平成30年7月豪雨（西日本豪雨）を教訓に、自治体等から発表される防災情報を用いて、住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくするために、「警戒レベル」が導入されました。自らの命は自ら守る意識を持ち、最善の備えと避難行動を心がけましょう。